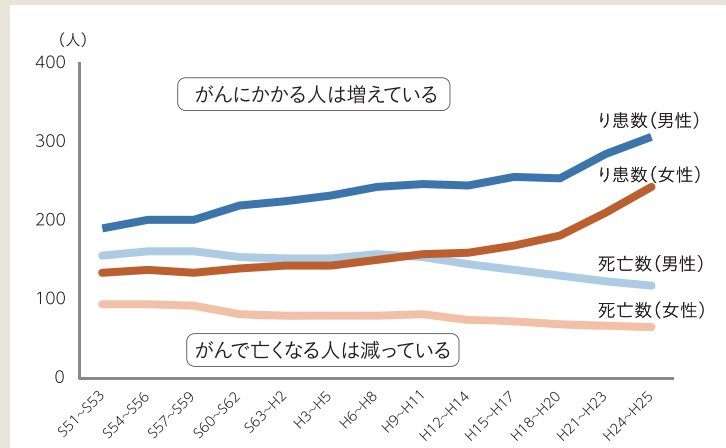


# がんは、不治の病から共に生きる病へ

がんにかかる人\*は増えていますが、がんで亡くなる人\*は減ってきています。  
がんは決して死の病気ではなく、「長くつきあっていく」病気になりつつあります。

## がんと共に生きる人の数の推移

年齢調整された10万人当たりのがんにかかる人と死亡数の年次推移（世界人口で調整）



出典：「神奈川県悪性新生物登録事業年報（平成25年のり患集計）」

## がん患者への 就労支援

神奈川県では年間約 56,600 人が新たにがんにかかり、その約 3 割は 20～64 歳の働く世代です。しかし、医療の急速な進歩や早期発見・治療により、入院期間は短くなり、通院治療が増えています。

県では、がん患者さんが仕事と治療を両立させ働き続けることを支援するため、「がん相談支援センター」における相談・情報提供のさらなる充実に努めています。また、事業者などへの理解の促進に取り組んでいます。

## ご質問やご相談は、 「がん相談支援センター」へ



がんに関するさまざまなご質問やご相談は、がん診療連携拠点病院と神奈川県がん診療連携指定病院に設置されている「がん相談支援センター」へどうぞ。どなたでも無料で、がん専門相談員に相談できます。

例えば

- がんの治療について理解したい
- 療養生活のことについて聞いてみたい
- 治療と仕事を両立させたい
- 生活や経済的なことで心配がある

神奈川県内のがん相談支援センターに関する情報はこちらから

かながわのがん対策

検索

# 「がん」のいまを知り 明日へ活かすために

## がん登録はがん対策に 欠かすことのできない重要なデータです！

「がん登録」とは、がんの診断・治療・経過などに関する情報を集め、保管・整理・解析する仕組みです。患者数や、性別・年齢別・部位別などの傾向を把握することで、より有効ながん対策を行うことができます。

神奈川県の死亡原因第1位は、がん。県では昭和45年より、全国でも早くから「がん登録」を実施し、がん対策の推進に不可欠なデータとして活用してきました。

この「がん登録」は、法律の施行により平成28年1月から、全国で行われることになりました。これにより、全国どこの医療機関でがんが診断されても、その患者さんのデータは都道府県の「がん登録室」を通じて集められ、国のデータベースで一元管理されるようになります。

(※出典：国立がん研究センター「がん登録・統計」[http://ganjoho.jp/reg\\_stat/can\\_reg/index.html](http://ganjoho.jp/reg_stat/can_reg/index.html))





# 「がん登録」から見えてくる傾向、そして次のアクション

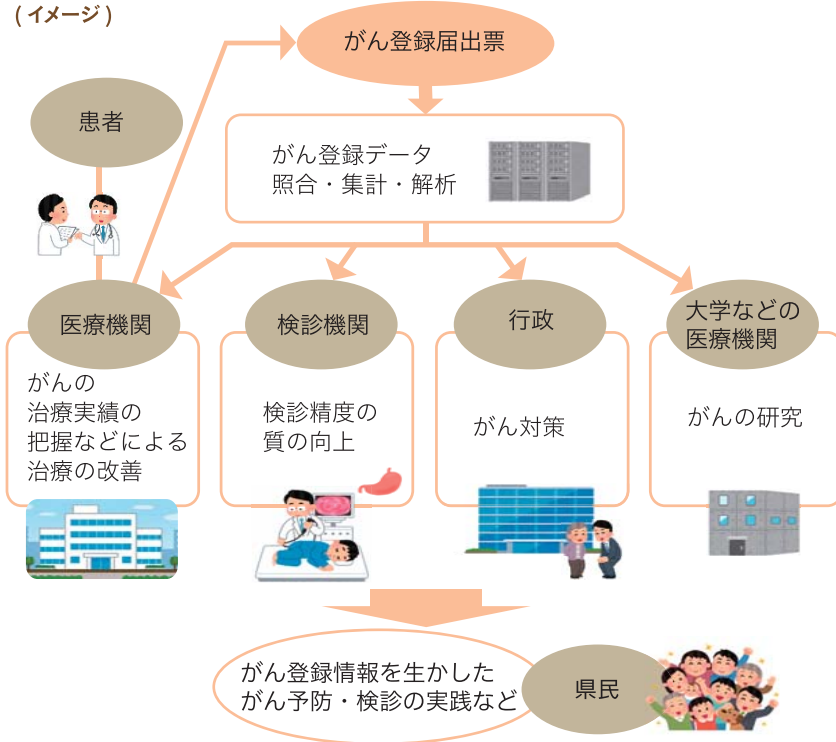
## 「がん登録」は 県民・医療機関・行政にとって 大きなメリットとなります。

医療機関から集められた「がん登録」のデータは、国のデータベースで一元管理され、照合・集計・解析などが行われます。そこから得られるデータは、検診精度の質の向上や治療の改善などに反映されます。また、研究機関での研究はもとより、県のがん対策にも活かされ、がん予防や検診の精度管理の実施など、県民のみなさんにとっても大きなメリットとなります。

### 個人情報の保護

「がん登録等の推進に関する法律」において、個人情報の保護や管理、さらには罰則に対する規定が厳しく定められています。集計値や研究内容を発表したりするときは、個人が特定されないような形で公表するよう厳重に管理されています。

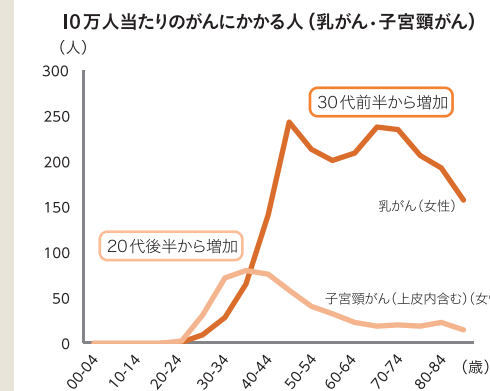
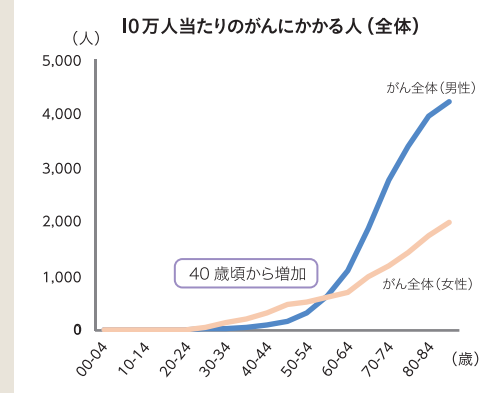
### がん登録と活用の流れ (イメージ)



### がん登録についての 問い合わせ

地方独立行政法人 神奈川県立病院機構  
神奈川県立がんセンター 臨床研究所がん予防・情報学部  
〒241-8515 横浜市旭区中尾 2-3-2 ☎ (045) 520-2222 (代表) 内線 4032

### がんにかかる人の年齢別傾向



出典：「神奈川県悪性新生物登録事業年報（平成25年のり患集計）」

## がんの早期発見には、検診が重要です

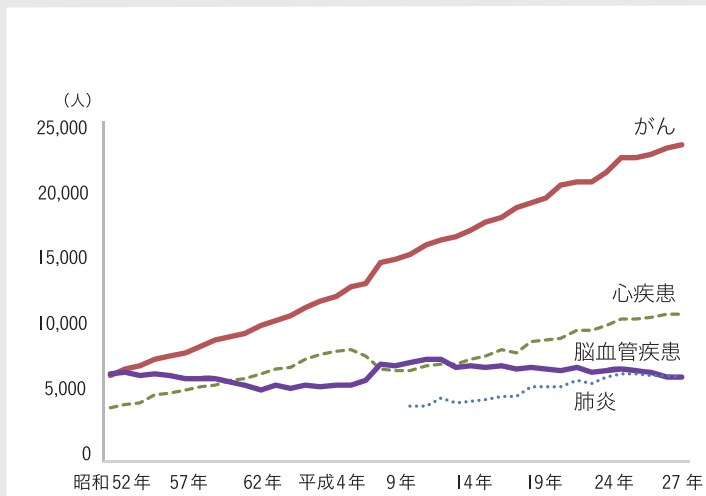
子宮頸がんは20代後半、乳がんは30代前半、その他のがんは男女とも40歳頃から増加します。定期的ながん検診を受けることが、早期発見には欠かせません。

がん検診は、お住まいの市町村やご加入の健康保険組合で受けられます。市区町村のがん検診担当課や、ご加入の健康保険組合などへお問い合わせください。

神奈川県 がん検診

検診の種類別	検査方法	対象者	受診間隔
胃がん	バリウムを飲んで胃のX線写真を撮るか、カメラが付いたチューブを口や鼻から挿入し、胃の中を直接観察します。	50歳以上	2年に1回
大腸がん	採取した便に潜血があるかどうかを検査します。	40歳以上	年1回
肺がん	肺のX線写真を撮ります。	40歳以上	年1回
子宮頸がん	子宮の頸部から、細胞を取って顕微鏡で検査します。	20歳以上の女性	2年に1回
乳がん	専用の装置（マンモグラフィ）により乳房のX線写真を撮ります。	40歳以上の女性	2年に1回

### 神奈川県の主要死因別死亡者数の推移



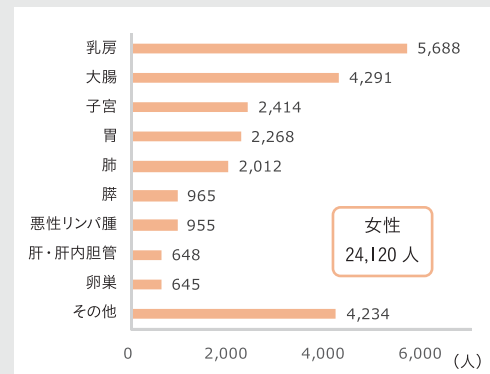
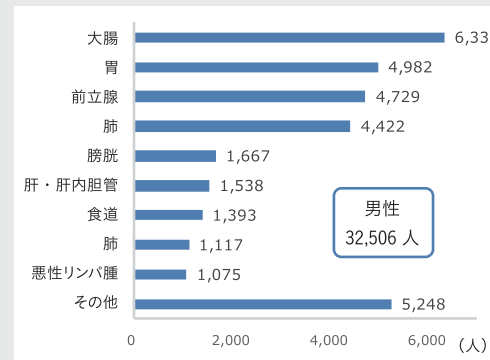
- がんは昭和53年以降、死因の第1位となっています。
- 生活習慣を見直して、がんを予防しましょう。

### 5つの項目を習慣にして、がん予防！ 実践することでリスクは男性43%、女性37%低下

- 喫煙** たばこを吸わない。受動喫煙を避ける。
- 飲酒** アルコールは1日あたり日本酒1合、ビール大瓶1本程度に。
- 食事** 食塩の摂り過ぎに注意。
- 運動** ウォーキングや適度な運動を心がける。
- 体形** 適正なBMI値を知り、数値を維持する。  
中高年男性：21～27  
中高年女性：21～25  
※体重(kg)/{身長(m)}<sup>2</sup>で算定し、日本人の推奨BMI範囲は、18.5～25(日本肥満学会)
- 感染** 地域の保健所や医療機関で、肝炎ウイルスやピロリ菌の検査を受けましょう。

※国立がん研究センターがん情報サービス(科学的根拠に根ざしたがん予防ガイドライン、日本人のためのがん予防法)より、一部抜粋

### がんにかかる部位の男女別傾向



出典：「神奈川県悪性新生物登録事業年報（平成25年のり患集計）」

### 最先端のがん治療 重粒子線治療施設 i-ROCK

重粒子線治療は、i-ROCKの中にある直径20メートルにも及ぶ大規模な加速器によって光の速さの70パーセントという超高速まで加速された炭素イオンのビームを、がん病巣に照射する、最新の放射線治療の一種です。従来のX線治療等に比べがん殺傷能力が高く、がん病巣に集中的に当てることが可能なことから、正常な細胞には負荷を少なくして、治療期間も短縮されますので、働きながらの通院治療も可能な治療法です。

#### ▼直径20メートルの重粒子線加速器



神奈川県立がんセンター 重粒子線治療電話相談窓口  
お問合せ ☎ 045 (520) 2225  
電話受付時間：月～金曜 (9～17時)